

アルテピア

一般社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北3条西18丁目2-7 新田ビル TEL・FAX 011-644-4025  
http://www.artepia.or.jp



岩船修三《森の中の神々》

1973(昭和48)年 油彩・キャンバス 91.0×116.8cm (北海道立函館美術館蔵)

函館の老舗呉服店に生まれた岩船修三(1908[明治41]～1989[平成元])は、北海道庁立函館商業学校(現・北海道函館商業高校)では、絵画部の「極光画会」に在籍し、油彩画を描きはじめました。同校卒業後は上京し、洋画家の青山熊治に指導をうけ、帝展や光風会展に入選を果たします。1936(昭和11)年からはフランスに渡り、ピカソやマティスらの知己を得て、彼らから刺激を受けつつ自身の作風を模索。戦争激化により1939年に帰国しました。

戦後、函館に戻った岩船は、全道美術協会の創立会員となり、また赤光社の再建に尽力します。1950年代には、抽象表現に刺激を受けた具象画に取り組みますが、1960年代に入ると、アイヌの神話や伝説の世界を、豊

かな色彩で幻想的に描くようになりました。

本作は、アイヌ神話に登場する神々を描いた1点です。画面右寄りには、アイヌの男女の間にシマフクロウとミヤマカケスが描かれ、画面左ではエゾフクロウが翼を広げ、その下でキタキツネとヒグマがアイヌの男性を見つめています。そして、画面中央やや上では、フクジュソウが花を咲かせています。青と黄を主調に、赤や緑などの強い色を散りばめながら、とこところで絵具を盛り上げたり、直接画面に垂らしたりしています。岩船が魅了されたアイヌ神話の世界が、画家独特の色彩感覚と変化に富んだ絵肌を通して、生き生きと表現されています。

(北海道立函館美術館 学芸員 星野靖隆)





倉本聰 (1935年～)

# 森のささやきが 聞こえますか

## 倉本聰の仕事と点描画展

2018年9月7日(金) ▶ 11月7日(水)

北海道立釧路芸術館 学芸員 熊谷 麻美

日本を代表する脚本家・倉本聰。テレビの草創期である昭和中期から平成が終わろうとする今日に至るまで、厳しくも温かなまなざしに満ちた物語を日本中に届けてきました。この秋、釧路芸術館では倉本の脚本家としての仕事、そしてライフワークとして描き続けている木々の点描画をご覧いただきます。

東京生まれの倉本は、父の趣味である野鳥観察や、戦中の地方への疎開を通じて、少年の頃から自然に愛着を抱いていました。出版社を営む父は俳句をたしなむ文化人で、倉本の言語感覚は幼いうちから研ぎ澄まされてきたのでしょう。東京大学に入学すると、脚本の執筆に熱中します。卒業後はニッポン放送に入社し、ディレクターとしてラジオドラマの制作に関わりながら、職場には黙って「倉本聰」のペンネームでドラマの脚本を書いていました。次第に頭角を現し、上司から「倉本」という脚本家に会ってこい」と言われたというエピソードも残っています。

執筆に専念するためにニッポン放送を退社すると、「現代っ子(1963年)」「君は海を見たか(1970年)」「赤ひげ(1972年)」などのヒット作を生み出します。仕事のトラブルを機に東京を離れ、手つかずの自然が残る富良野に移住したのは今から約40年前のことです。自然豊かな北海道での暮らしは倉本に活力と創作のヒントを与え続け、この地で数々の名作が生まれました。中でも著名な



「夜の森桜はそっと呟く」より 〈夜の森 夕景〉(2017年)

は、やはりテレビドラマ「北の国から(1981～2002年)」。東京から富良野の原野に移住した親子の成長を追った物語には、倉本の実体験が反映されています。

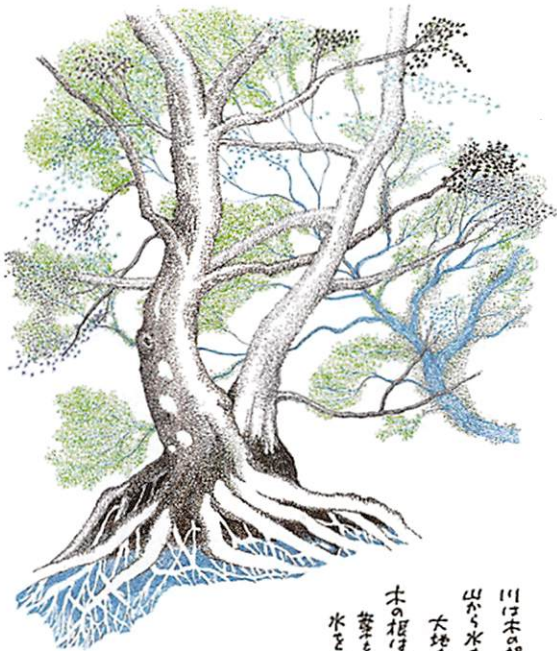
富良野ではドラマの仕事に止まらず、若手の役者や脚本家を養成する富良野塾(のちに富良野GROUP)や、環境保全を目的としたNPO法人富良野自然塾を主宰するなど、富良野の町づくりにも大きな役割を果たしています。



倉本が執筆のかたわらで点描画を描いていることをご存じでしょうか。もともと絵が苦手であったという倉本ですが、舞台の画コンテの制作を通じて絵に関心を持つようになり、十数年前から独学で点描画を描き始めました。画題には、一貫して木を選んでいきます。100種類以上のペンを使い分けて点の大きさや密度を操り、爽やかな若葉から老木の皮に刻まれたシワまで、素朴かつ丹念に描きます。作品の中には、絵の余白に短文が添えられているものも。これは倉本が森の中で耳を澄ませて書き留めた木たちの「ささやき」です。書くことを生業とし、そして自然を愛する倉本ならではの表現であると言えます。



脚本を書くことと、木を描くこと。両者は一見結びつかないように思えるかもしれませんが、倉本のこだわりを共通して垣間見ることができます。



川は木の根に酔いどれ  
山から水を集め  
大地をうごめく  
木の根は大地から水を吸い  
養分を分けらせて  
水を天にもどす

17.7.14 循環  
55

《循環》(2017年)

倉本は脚本を書く前に、登場人物たちの人生の歩みから、生まれ育った家の間取りや町の地図まで、想像力を膨らませて書き記します。物語の中でこういった設定が明かされることはなくても、設定が作品の「根」となることで登場人物に個性が宿り、ドラマが生まれます。

そして木を描くときは、物語の登場人物の設定を練るように、一本一本の木の歴史や個性を想像します。何十年、何百年も前からひとところ立ち続けてきた木たちは変わりゆく時代を見て、今、何を思うのでしょうか。時には、木がそこにあり続けるために欠かせない地中深くの「根」の姿を想像して作品にすることもあります。

死んだ者のこと  
世間はすぐ変わる  
朽ちた木のことなど  
おぼえてもいない  
まして 根のことなど  
想うものはいない



《朽ちた木》(2017年)



「北の国から」石の家 撮影セット(夜間撮影用、1995年)  
実際の撮影に使用したセットは必見。「五郎さん」のコートを羽織って記念撮影を楽しめます。

展覧会では倉本がこれまでに創り上げてきたドラマ、映画、舞台作品の資料、そして点描画の作品群を通じて、倉本の思いに触れていただきます。東日本大震災で原発事故の被害を受けた福島県富岡町を訪れて描いた点描画「夜の森桜はそっと眩く」のシリーズは北海道初公開。震災の記憶を早くも風化させつつある世間への批判が、木々のささやきに、切実に託されています。懐かしの名作を振り返るとともに、今の時代を力強く表現し続ける倉本聡の多彩な世界に浸ってください。



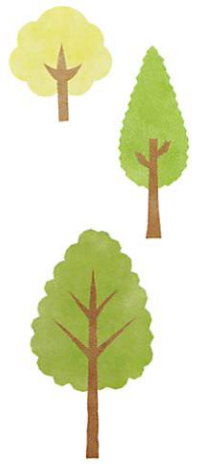




2018年は北海道150年  
Hokkaido's 150th Anniversary

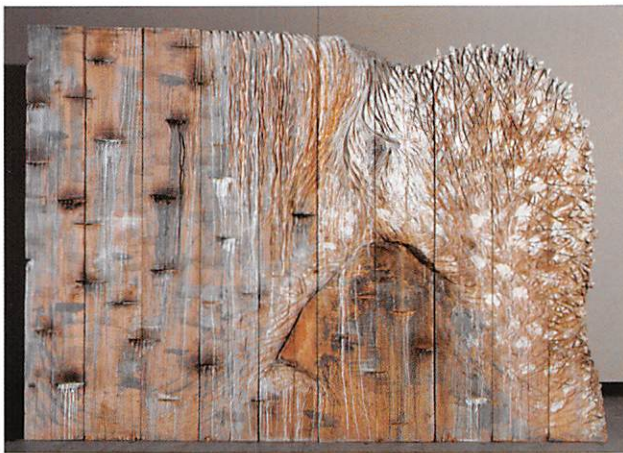
# NATURE & ART

## 木をめぐる美術



2018年11月14日(水)～2019年1月14日(月・祝)

北海道立旭川美術館 学芸員 門間 仁史



戸谷成雄《山津波》1988年 北海道立旭川美術館蔵

本展では、  
当館のコレク  
ションの柱と  
なる木の造形

多く制作され  
ています。  
現代において  
も木を素材と  
した作品が数  
多く制作され  
ています。

旭川においては、木は製材業とともに、大正期に振興がはかられた家具生産を主とする木工業の伸長を支えました。以来、家具生産は旭川の主要産業となり、その流れは、今日の「旭川家具」のブランドに連続と引き継がれています。他方、美術の世界では、加工が容易であることや、美しい木目や地肌をもつこと、そしてそもそも生命体であり有機的なぬくもりと力強い生命感に溢れることといった独特の性質が美術家たちを引きつけてやまず、

旭川美術館では、北海道150年を記念して、「木」をテーマとした展覧会を開催します。  
木は家屋や生活用具に使用されるもつとも原初的な素材として、また装身具や宗教的な造形物などの素材として、古来より人の営みと密接に関わってきました。とりわけ広大な森林に恵まれたここ北海道においては、長い歴史をもつアイヌ民族の文化のなかではもちろん、明治以降に発達した産業のなかでも様々な用途に用いられ、多様な木の造形を生み出してきました。  
旭川においては、木は製材業とともに、大正期に振興がはかられた家具生産を主とする木工業の伸長を支えました。以来、家具生産は旭川の主要産業となり、その流れは、今日の「旭川家具」のブランドに連続と引き継がれています。他方、美術の世界では、加工が容易であることや、美しい木目や地肌をもつこと、そしてそもそも生命体であり有機的なぬくもりと力強い生命感に溢れることといった独特の性質が美術家たちを引きつけてやまず、

また本展では、「森と匠の村」としてのまちづくりを進める音威子府村の営みにも焦点をあてます。同村は、1978年に砂澤を招き、巨木を素材としたダイナミックな彫刻制作の契機をつくるなど、豊富な森林資源を活かして多くの美術家や工芸家たちの創造力を刺激しています。会場ではこうした音威子府村の取り組みのひとつとして、北海道おといねっぴ美術工芸高等学校の活動を取り上げ、その魅力を生徒の作品や映像によって紹介します。

から工芸と現代美術の作品を中心に展示し、豊かな自然と木という素材によって育まれた技と表現を紹介します。なかでも本道の木彫を語る上で欠くことのできない作家である砂澤ビッキ(旭川出身、1931-189)については、札幌芸術の森美術館や音威子府村の砂澤ビッキ記念館などが所蔵する作品に加えて、昨年度当館が新たに購入した7点を初めて一般に公開します。



砂澤ビッキ《風に聴く》1987年 札幌芸術の森美術館蔵



# MUSEUM CALENDAR

## 2018.9～2019.3

美術館のおもな展覧会ご案内

は特別展示室  は常設展示室

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	9/29(土)～11/14(水) 京都市立近代美術館名品展 極と巧 京のかがやき		11/21(水)～11/30(金) 新生30年記念 さわらび会書展 平安古筆名宝展 と現代作家	12/8(土)～1/27(日) 絹谷幸二 色彩とイメージの旅		2/5(火)～3/21(木・祝) 生誕70年・没後40年記念 深井克美展	
	7/7(土)～11/11(日) 1F 北の美術家群像 2F みんなのアート1,2,3くこの1点を見てほしい。> ～9/6(木) 9/7(金)～11/11(日) 林竹次郎(朝の祈り) 岩橋英遠(臺北の人)		11/21(水)～3/21(木・祝) 1F 近美コレクション名品選 2F ガラスと近代洋画の名品 小樽芸術村×近美 <この1点を見てほしい。> 11/21(水)～1/25(金) 1/26(土)～3/21(木・祝) 瀬戸英樹(網干す浜) 本間莞彩(雪の幌都(陸橋))		TEL 011-644-6882 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">道近美</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>		
三岸好太郎美術館	9/15(土)～11/25(日) beyond2020プログラム 三岸好太郎を追いかけて アートギャラリー北海道事業 mima-no-me #みまのめ			第1期:12/8(土)～2/3(日) 第2期:2/13(水)～4/11(木) アートギャラリー北海道事業 mima-no-me #みまのめ			
	所蔵品展 三岸好太郎セレクション				TEL 011-644-8901 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">三岸美術</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>		
旭川美術館	9/13(木)～11/7(水) 女性像にみるフォルム/現実/夢 描かれた女たち		11/14(水)～1/14(月・祝) 北海道150年事業 NATURE&ART 木をめぐる美術		1/19(土)～1/25(金) 毎日書道展 第70回記念 毎日現代書道巡回展	2/22(金)～3/31(日) 探検!?美術館	
	4/26(木)～11/7(水) 姿/Figure-かたちの思惑		11/14(水)～3/31(日) 感じるアート - イロ・カタチ・ココロ		TEL 0166-25-2577 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">旭川美術</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>		
函館美術館	8/27(月)～10/4(木) ポイラー工事 のため全館休館	10/5(金)～11/25(日) 歌川広重 二つの東海道五拾三次 江戸っ子たちの旅ログ!?		12/1(土)～2/3(日) ケータイ絵文字のほっこりワールド NTT DOCOMOの初期の絵文字から 同時開催 ハコビ・コレクションの「文字と記号」		2/9(土)～4/17(水) 生誕110年 岩船修三展 水辺のものがたり	
	10/5(金)～2/3(日) たべもの×アート=おいしい関係		2/9(土)～4/17(水) 東洋の美 こころ、悠々と、あそぶ。 鶴亭先生、ヨーロッパへ行く。		TEL 0138-56-6311 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">函館美術</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>		
帯広美術館	9/15(土)～12/2(日) 神田日勝と道東の画家たち & 岡沼淳一・木彫の世界		12/15(土)～2/11(月・祝) 北海道150年事業 松浦武四郎 生誕200年記念 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎		2/21(木)～3/31(日) 北海道のアール・ブリュット展 こころこころの交差点		
	6/30(土)～12/2(日) 絵具の国-抽象表現の試み-		12/15(土)～3/31(日) 描かれた物語		TEL 0155-22-6963 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">帯広美術</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>		
釧路芸術館	9/7(金)～11/7(水) [開館20周年記念] 森のささやきが聞こえますか 倉本聰の仕事と点描画展		11/16(金)～1/16(水) [開館20周年記念] 芸術館コレクション 1998-2018		「ドキンとするような 絵を描いてみたい…」 川瀬敏夫作品展		1/25(金)～3/10(日) 荒井記念美術館所蔵 ピカソ版画展 一初期から晩年まで60年の軌跡
	9/15(土)～10/8(月・祝) (我が町のお宝)展 -別海町から		12/26(水)～1/16(水) 冬のキッズアトリエ		TEL 0154-23-2381 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">釧路芸術</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>		
札幌芸術の森	～9/24(月・祝) ブリュッセル展 画家一族150年の系譜	10/6(土)～11/25(日) 札幌美術展 五十嵐威暢の世界		12/1(日)～3/31(日) 館内工事・整備のため 休館			
	7/28(土)～11/25(日) 五十嵐威暢の世界 中庭インスタレーション 無意識の庭		TEL 011-591-0090 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">芸術の森</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>				
札幌彫刻美術館	7/27(金)～10/25(木) 市民交流プラザ開館記念連携事業 オペラの衣裳と舞台美術 煌く「アイダ」の世界		11/2(金)～1/17(木) 本田明二展 ひとノミひとノミ、私は木を削る		1/25(金)～3/14(木) コレクション展 彫刻家・本郷新の見た「異国」		3/21(木・祝)～3/31(日) POST3.11 in Sapporo ～及みゆく記憶の道で～
	4/28(土)～2019.3/31(日) コレクション展 本郷新、その生涯と作品		*1/25(金)～1/27(日) さつぼろ雪像彫刻展2019		TEL 011-642-5709 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本郷新彫刻美術</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">検索</span>		

○開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

※芸術の森 9:45～17:00 (6月から8月は17:30まで) ※本郷新記念札幌彫刻美術館 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

○休館日 ●毎週月曜日(月曜日が祝日又は振り替え休日のときは開館、翌火曜日休館)

●年末年始(12/29～1/3) ●展示替え期間(展覧会と展覧会の間)

※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員証の利用について 貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了承願います。



近代美術館

未完のランナー再び

— 生誕70年・没後40年記念 深井克美展  
2019年2月5日(火)～3月21日(木)

深井克美は、1948年3月9日に北海道・函館に生まれ、1978年12月16日に東京・練馬区で自らその生涯に幕をおろした夭折の画家です。

1968年の自由美術展で西八郎の作品に感銘した深井は同氏に師事し、1972年に同会に初入選、翌年には異例の早さで会員に推挙されます。以後、同会を中心に制作活動を続けますが、わずか30歳で命を絶つた彼の画業は10年に満たないものでした。

緻密な点描と豊かな色彩で描いた幻想的な作品の多くには、画家の内奥に秘められた



深井克美《ランナー(未完)》1978年 北海道立近代美術館蔵

生の苦悩と悲しみが色濃く投影されています。時にゲロテスクなまでの印象を与える特異な画風は、描くことへの魂の叫びが込められたものともいえ、今も見る者を強く惹きつけます。

本展は、深井克美の生誕70年・没後40年を記念して、初期から絶筆までの代表作を網羅するとともに、彼の画業に大きな影響を与えた作家たちの作品や関連資料も加え、画家の足跡を丁寧にとらえる内容で開催します。

mima 三岸好太郎美術館

三岸好太郎を追いかけて

9月15日(土)～11月25日(日)

日本近代洋画史のなかで鮮烈な光彩を放った、三岸好太郎(1903「明治36」年～1934「昭和9」年)。三岸が画家として活躍したのは、31歳の若さで急逝するまでの10年あまりにすぎませんが、その間、新たな美術思潮を次々に取り入れながら作風をめぐまぐるしく転換し、片時も立ち止まることなく自らの表現を追い求めました。三岸は、なにを指し、どこに向かおうとしていたのでしょうか。

当館では、1967(昭和42)年の開館以来、50年にわたって、三岸の画業や足跡にさ



三岸好太郎《旅愁》1934年 国際興業株式会社蔵

さまざまな角度から光を当ててきました。こうして明らかにされた三岸の多面的な魅力をも、最晩年の詩情あふれる名作《海洋を渡る蝶》《旅愁》(いずれも1934年、国際興業株式会社蔵)をはじめ、生涯の代表作を通じてご紹介いたします。この展覧会が三岸芸術を改めて検証する機会になり、新たなアプローチをさぐる端緒となれば幸いです。

旭川美術館

描かれた女たち

女性像にみるフォルム／現実／夢  
9月13日(木)～11月7日(水)

日本では、明治以降、西洋美術との出会いによって絵画における人体表現が大きく変わります。科学的に対象をとらえることや、陰影法など立体感を表す描法を学んだこと、また、理想的身体像としてのヌードの表現を知り、さらには絵画とはなにかという西洋近代的な概念を受容したことなどがその理由にあげられるでしょう。近代以降、多様な女性像が生み出されてきました。

本展では、藤島武二、萬鉄五郎、梅原龍三郎ら近代絵画の巨匠から、奥谷博、絹谷幸二、中山忠彦ら、現役で活躍す



藤島武二《婦人像》1927年頃 笠間日動美術館蔵

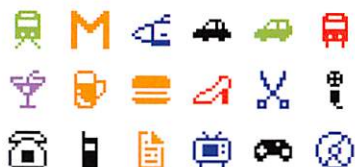
る作家まで76点の女性を描いた絵画を紹介いたします。幼い少女、若い女性、花嫁、母子、現実のモデルを描いた作品から理想化された女性像まで、さまざまな女性像を、身体美に注目した「フォルム」、画家が実際の女性の存在を描いた「現実」、画家の想像力による理想を表現した「夢」の3章に分けて展示します。それぞれの作品から、女性像の魅力を感じていただければ幸いです。

函館美術館

ケータイ絵文字のほこりワールド

NTT DOCOMOの初期の絵文字から  
12月1日(土)～2019年2月3日(日)

1999年にNTT DOCOMOが携帯メール用に開発した「絵文字」は、いまや世界中で愛され、MOEMA(ニューヨーク近代美術館)のコレクションにもなりました。本展では、12×12ドットでつくられた初期の絵文字を、プリントアウトならびにスライドショーでご覧いただけます。文字のみがならぶ文章は無表情ですが、そこに絵文字が添えられることで送り手の「こころ」をも伝える「メッセージ」へと変容します。当館のコレクション



株式会社NTTドコモ《携帯絵文字 オリジナルセット》より 1999年

ションのテーマのひとつである「文字と記号に関わる現代美術」とともに、ご覧ください。また、公立はこだて未来大学との連携事業として、同大学の学生が卒業制作としてとりくんた、観覧者が参加することのできる映像インスタレーションもあわせて展示します。当館の「書」コレクションの作品をモチーフに、あなた自身が映像の中に入り込むことにより、ユニークな「文字」が生み出されます。ぜひご来場ください。



## 帯広美術館

### 神田日勝と道東の画家たち

9月15日(土)～12月2日(日)  
 & 岡沼淳一・木彫の世界

神田日勝(1937-70)は、東京に生まれ、1945年、終戦の前日に家族とともに鹿追町に入植しました。中学校卒業後、農業に従事しながら画家として旺盛な制作活動を展開。短い画業において、人や農耕馬、牛、画室、社会風俗などをモチーフに、真摯なまなざしと深い思索により数々の秀作を生み出しました。本展は神田日勝記念美術館との連携企画で、当館で25点におよぶ神田日勝の作品が展示されるのは初のことです。一群の日勝作品とともに、同時代を生きた画家たちの作品により、道東地域の活発な美術動向の一端をご覧いただけます。

同時開催は、「岡沼淳一・木彫の世界」展です。岡沼淳一は、1944年に函館市に生まれ、大学卒業と同時に移住した十勝を拠点に、全道展、自由美術展(2003年退会)をはじめ、各種のグループ展、個展に出品を重ねてきました。十勝川水系のニレの理もれ木を素材に、長年制作し続けてきた岡沼淳一。緊張感あ

るフォルムを特徴とする木彫の世界をぜひご覧ください。



岡沼淳一《森を見た日》1995年 作者蔵  
 撮影・莊田喜與志



神田日勝《ゴミ箱》1961年  
 神田日勝記念美術館蔵

## 釧路芸術館

### 開館20周年

11月16日(金)～2019年1月16日(水)  
 芸術館コレクション1998-2018

北海道立釧路芸術館は今年で開館20周年を迎えます。当館では開館以来、魅力的なコレクションの形成を目指して美術作品の収集を続けてきました。作品収集にあたり、「自然と芸術」「映像芸術」「地域と芸術」の3つの収集方針を立て、これらの方針のもと現在139件・679点の作品を所蔵しています。本展ではコレクションの中から選りすぐりの作

品を紹介。それぞれの作品が当館のコレクションの中で収集テーマのように関連づけられ、自然や地域をどのような視点から捉える表現であるかを示すことでコレクションの価値を再確認する内容で構成し、展示を通じて当館20年間の活動をふまえてコレクションの魅力力をさらに掘り起こします。



岩橋英遠《彩雲》1979年

## 札幌芸術の森美術館

### 札幌美術展 五十嵐威暢の世界

10月6日(土)～11月25日(日)

日本を代表するデザイナーの一人である五十嵐威暢。グラフィックデザイナーとして活動していた1970年代半ば、製図台(ドラフター)を用いて二次元の文字を三次元におこした立体文字による作品で世界的に注目されます。また、サントリーや明治乳業、カルピス、サミットストアなどのロゴを手がけ、多くのロングライフデザインを生み出してきました。1994年、五十嵐はデザイナーから彫刻家に転身します。肥沃な大地を思わせるテラコッタのレリーフ、木の葉や花のかたちに合板を切り抜いた「こもれび」シリーズなど、五十嵐による彫刻作品は、「偶然性と即興性」を大切に、ひたむきに素材と向き合いな

がら創り出されています。

本展では、デザイナーとしての原点である1973年の個展から彫刻家としての現在までの仕事の変貌を示すポスター、プロダクト、彫刻約150点が一堂に会します。



五十嵐威暢《ゆふるじ》2016年 作家蔵  
 撮影：酒井広司

## 本郷新記念札幌彫刻美術館

### 本田明二展

11月2日(金)～2019年1月17日(木)  
 ひとノミひとノミ、私は木を削る。

2019年に生誕100年、没後30年を迎える彫刻家、本田明二。北海道出身の著名な彫刻家が活動の拠点を東京に移していくなかで、北の地に根を下ろし、創作に向き合いつづけました。そのおらかな造形には素朴さと、ひとノミひとノミ丹念に形づくられた美しさが共存しています。飄々とした人柄に魅了された人物は数多く、なかでも同じく彫刻家の本郷新は信頼を寄せ

自身の Monument 制作への協力をしばしば依頼していました。

本展では、生涯を通じて取り組んだ木彫を中心に、本田の作品に込められたたくましい生命の息吹と、その制作に傾けた熱意を紹介いたします。



本田明二《馬碑》1967年



# A·RE·KO·RE information

## わー、きれい!

「わー、きれい!」「牛のほかにも人間7人いる!」「絵具そのまま描いている!」「この彫刻、ジブリみたい!」。札幌市立共栄小学校5年生、97名の児童が常設展《北の美術家群像》を鑑賞しながら思い思いの感想を発する。7月10日(火)ボランティア解説部5名ほか案内係13名のスタッフで迎える。当小学校では毎年5年生になって近美での美術鑑賞を行っているという。それぞれ数名のグループに分かれての鑑賞、短時間ながら花田和治《百瀬寿》、神田日勝《人と牛》、中江紀洋《宿世からの追伸》など焦点を絞って作品を楽しんだ。その後、特別展《日本の美・百花繚乱》を鑑賞。



## 作るって楽しい アート・クラブ2018

三連休初日の7月14日(土)、近美2階ホールは多くの人で賑わいました。お好みのシール、金銀紙、いろ紙、ビーズやストローを組み合わせて作る“紙ふうりん”に大人も子どもも真剣そのもの。出来上がったふうりんはこの夏、ご家庭の窓辺を飾ったことでしょう。



## 「美術への誘い」—中央区いきいき講座—

6月27日(水)に、ボランティア活動員の特別活動部における事業「美術への誘い」が、中央区いきいき講座の一環として、中央区民センターにおいて行われました。

美術への関心を高め、一人でも多くの皆様に美術館へ足を向けてもらうために企画されたもので、今回は《東京富士美術館 コレクション展》《北海道赤レンガ庁舎と絵画》《浮世絵から影響を受けた海外の作品》という話題の高まりがうかがわれる3講座ということでした。

当日は、あいにくの強い雨の日でありながらも40名を超える参加者を数え、講師の方々の手慣れた細やかな説明に、興味深く傾きながら耳を傾けている姿が見られました。



### ●今後の日程

はちけん地区センター	9月29日(土)
介護予防センター旭ヶ丘	10月10日(水)
北老人福祉センター	10月23日(火)
中央図書館	11月6日(火)
中央区民センター	11月28日(水)

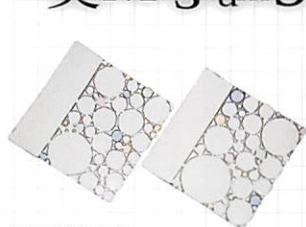
## 「移動美術館」のご案内

例年、実際の美術作品を鑑賞する機会の少ない地域を訪問し、美術作品を楽しんでもらう取り組みをしております。お近くの方は是非お立ち寄りください。

- 占冠村 10月4日(木)～10月10日(水)  
占冠村コミュニティスラザ 多目的ホール
- 美深町 10月13日(土)～10月17日(水)  
美深町文化会館COM100 小ホール

## 近美 Museum Shop

美術館にお越しの際はどうぞお立ちより下さい



吉田絵里子 作  
ガラス皿(12×12cm)2枚組  
8,887円



紅白梅図  
高さ20.0cm  
扇子  
各4,320円



かきつばた図  
高さ22.5cm

香合(直径8×高さ3cm)  
1,620円



ダンボールアート



恐竜(ピンク・茶色)  
高さ13cm  
1,404円～







## 平成30年度 定時総会の報告・新役員名簿

去る6月5日、近代美術館講堂において定時総会が開催されました。冒頭、吉野会長から「平成29年度は当協会設立40周年の節目の年であり、記念事業を盛大に執り行うことができたことに感謝申し上げます。財政再建については、売店部門の収益が大きく上がったことから、平成29年度決算は久しぶりの黒字になり、基金に積むことができるようになりました。これに安心することなく、50周年に向けて活動の充実や会員数の増加など、当協会の体制が磐石になるよう更に取り組んでいきたい。」との挨拶がありました。

### 議案審議の概要

#### 議案第1号 平成29年度事業報告・収支決算報告について

原案どおり承認可決しました。事業実施状況については、ほぼ当初の計画どおりに進める事ができました。収支決算については、表1のとおりです。

#### 議案第2号 理事・監事の任期満了に伴う選任について

役員の任期は2年で本総会をもって満了となることから、役員の選任を行い、原案どおり承認可決しました。新たな役員については、下表のとおりです。

#### 報告事項 平成30年度事業計画・収支予算について

事業計画及び収支予算について報告がありました。事業計画については、基本的に従来から実施している事業がベースとなっています。海外美術研修については、今後実施に向けて検討することとなっています。収支予算については、表2のとおりです。

### 新任役員紹介

#### 三原和廣 専務理事

この度、美術館協会の理事に就任いたしました。私事ですが、美術館との関わりでは平成3年、4年と平成18年の二度、近代美術館に勤務させていただきました。協会のボランティアの皆様方が大変熱心に活動されていたことを今でも覚えています。理事に就任して協会の40年を超える長い活動の歴史があること、近年は財政的に厳しい状況下にあることを知りました。微力ではありますが、事業運営を主体的に担っておられるボランティアの皆様方のご理解・ご協力をいただきながら、理事会と一体となって非常時を乗り越えていくため努力して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### 小沢正晴 理事

6月5日の定期総会で理事に選任されました。どうぞよろしくお願い申し上げます。私の美術館（美術展）との関わりは、1975年の道新入社までさかのぼります。特に道近美とは1993年以降、15年間にわたり、学芸・業務、そして協会の皆さんに大変お世話になりました。今回選任されたことで、そのお返しという気持ちになっております。今後、協会のさらなる発展のために何ができるか不安もありますが、今は、心引きしめてその任にあたりたいと思います。

#### 鹿内正一 理事

昨年度の協会設立40周年記念事業の、講演会やコンサートなどがいずれも盛会でした。また、年間を通じての会員確保キャンペーンも近年にない成果が上がり、これらは関係者のご努力、情熱、企画力の賜物と思っております。私は昨年までボランティア活動員をしておりましたが、今回、図らずも理事に選任されました。どこまでお手伝い出来るか解りませんが、微力を尽したいと思っております。よろしくお願い致します。

#### 一般社団法人北海道美術館協会役員名簿

会 長	吉野 次郎	理 事	石黒 勇治	管 伸之	藤井 正治	監 事	木村 俊昭
副 会 長	相馬 秋夫		*小沢 正晴	杉本 互	堀 利幸		黒田 幸男
	小林 敬明		加藤 康夫	戸井 俊夫	松平 英明		
	和田 壬三		小砂 憲一	長峯 慰子			(*新任役員)
専務理事	*三原 和廣		*鹿内 正一	名畑 節子			平成30年7月末現在



(表1)平成29年度収支決算総括表(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	合 計	一般会計	売店会計	科 目	合 計	一般会計	売店会計
基本財産運用収入	509	509	0	事業費支出	46,021,638	9,026,283	36,995,355
特別収入	0	0	0	管理費支出	7,744,443	7,744,443	
会費収入	12,134,000	12,134,000	0	特定資産取得支出	0	0	
事業収入	44,745,616	2,782,900	41,962,716	敷金・保証金支出	0	0	
寄付金収入	50,000	50,000		他会計への繰入金支出	2,000,000	0	2,000,000
雑収入	331,251	15	331,236				
特定資産取崩収入		0					
他会計からの繰入金収入	2,000,000	2,000,000	0				
当期収入合計	59,261,376	16,967,424	42,293,952	当期支出合計	55,766,081	16,770,726	38,995,355
前期繰越収支差額	481,138	113,827	367,311	次期繰越収支差額	3,976,433	310,525	3,665,908
収入合計(B)	59,742,514	17,081,251	42,661,263	支出合計(B)	59,742,514	17,081,251	42,661,263
予算額(A)	40,871,201	16,728,845	24,142,356	予算額(A)	40,871,201	16,728,845	24,142,356
差異(A-B)	-18,871,313	-352,406	-18,518,907	差異(A-B)	-18,871,313	-352,406	-18,518,907

(表2)平成30年度収支予算総括表(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

(単位:円)

区 分	収 入 の 部				支 出 の 部						
	科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	科 目	予算額	前年度予算額	差 異	備 考	
一 般 会 計	基本財産運用収入	1,000	1,500	-500	定期預金利息	事業費支出	6,398,940	8,540,032	-2,141,092	V活動経費、会報、 会員観覧料等 美術講座受講料、 つどい等経費	
	特別収入	0	0	0		新築協力費	5,733,940	6,530,712	-796,772		
	会費収入	13,018,000	13,544,000	-526,000	法人、個人会員年会費	新築等費	609,000	611,000	-2,000		
	事業収入	2,000,000	2,430,000	-430,000	美術講座受講料、 つどい会費	40周年記念費	0	1,342,320	-1,342,320		
	寄付金収入	0	0	0		新築修繕費	0	0	0		
	雑収入	100	10,500	-10,400	普通預金利息	新築修繕費	56,000	56,000	0		協力会賞贈呈経費
	他会計からの繰入金収入	0	1,000,000	-1,000,000		管理費支出	7,644,705	7,203,295	441,410		運営管理費
	当期収入合計	15,019,100	16,986,000	-1,966,900		当期支出計	14,043,645	15,743,327	-1,699,682		
	前期繰越収支差額	310,525	-257,155	567,680		当期収支差額	975,455	1,242,673	-267,218		
	収入合計	15,329,625	16,728,845	-1,399,220		次期繰越収支差額	1,285,980	985,518	300,462		
売 店 会 計	事業収入	24,720,000	24,000,000	720,000		事業費支出	23,764,567	22,993,590	770,977	仕入費、賃金、 施設賃借料等	
	雑収入	240,100	120,500	119,600	商品売上収入	他会計への繰入金支出	0	1,000,000	-1,000,000		
	当期収入合計	24,960,100	24,120,500	839,600	自動販売機手数料等	特定資産取得支出	2,000,000	0	2,000,000		
	前期繰越収支差額	3,665,908	21,856	3,644,052		当期支出合計	25,764,567	23,993,590	1,770,977		
	収入合計	28,626,008	24,142,356	4,483,652		当期収支差額	-804,467	126,910	-931,377		
総 計		43,955,633	40,871,201	3,084,432		次期繰越収支差額	2,861,441	148,766	2,712,675		
総 計		43,955,633	40,871,201	3,084,432		支出合計	28,626,008	24,142,356	4,483,652		



# アルテピアニュース

## 「こんな色だったの!」—春の屋外彫刻清掃—

穏やかな春の陽射しの中、6月22日(金)に、ボランティア活動員と近美学芸員による春の恒例行事、屋外彫刻清掃が近代美術館と三岸好太郎美術館のある知事公館において行われました。

半年の汚れを落とそうと20余名の参加者は雑巾を片手に準備もよろしく、10時には全員集合となりました。近代美術館にある《雲の砦jr》など4点から始め、次に知事公館にある《意心帰》など3点と、



作業はてきぱきと進められました。なんと磨いてみると、彫刻の中には「もともとはこんな色だったの!」という声も出て、新しい発見もありとても有意義な時間となりました。

## 「新緑に響く」—つどい2018—

定時総会終了後、協力会主催の「つどい2018」が開催されました。協力会役員・会員、ボランティア活動員そして近美学芸員の皆さんが一堂に会し、近美ホールは瞬く間に親睦を深める場となりました。

今年はトランペット奏者の松田次史氏をお迎えしての演奏です。澄んだ音色にのって「北の国から」やアンコール曲「川の流れるように」など親しみのあるメロディが広い会場を魅了していきました。



## 編集だより

- 記録的猛暑に見舞われた今夏。本州の短かい梅雨は道内に長雨を降らせることで帳尻を合わせたのでしょうか。いずれにしても地球全体異常気象!!
- 近美の秋は京都の趣き。京都国立近代美術館の名品展鑑賞の後は、ミュージアムショップで和物の数々をお手に取ってご覧ください。
- 新編集長のもと、スタッフ一同文殊の知恵を酷使しての73号、お楽しみ頂けたら幸いです。(M)

## アルテピア設立40周年記念事業第4弾 道南、四都物語 3泊4日



木村捷司記念室にて

松前公園にて解説を聞く



松前城前にて「ハイ!チーズ」

## 3日間限定! 会員募集キャンペーン

7月17日の「道みんの日」協賛事業として7月14日~16日の3日間、会員募集キャンペーンを行いました。それに伴い6月16日~7月16日の土、日曜日、近美エントランスにおいて理事、事務局スタッフ、ボランティアによる入会案内のちらし配りを実施。期間中に入会者5名にはプレゼントが進呈されました。



## 始めよう、ボランティア!!

7月26・27日、近美講堂において来年度ボランティア活動員の募集ガイダンスが行われました。

活動希望者は25名。部長による各部紹介後、希望者はそれぞれのブースに移動し、実際の活動について現役ボランティアからのガイダンスに耳を傾けていました。

一人でも多くの方がともに協力会のボランティア活動をしてくださるよう切に願っています。

